

式 辞

少しずつ寒さが和らぎ、吹く風に春の訪れが感じられるようになった今日の佳き日、枝幸町長村上守継様をはじめ、多くの御来賓の方々、並びに保護者の皆様の御臨席のもと、かくも盛大に、平成三十年度第六十八回入学式を挙行できますことは本校にとって、この上ない喜びであり、心より感謝を申し上げます。

ただ今、入学を許可された新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、職員とともに、皆さんを心から歓迎いたします。また、保護者の皆様には、お子様が、本日晴れて高校生となりましたことに、心からお祝いを申し上げます。

さて、今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の舞台は、幕末、薩摩藩鹿児島を物語としたものですが、これから登場してくる長州藩、現在の山口県、萩市にあった松下村塾についてお話をしたいと思います。この私塾の先生は吉田松陰であり、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文など、後の明治維新を牽引（けんいん）した多くの人材を育てた人物なのです。その吉田松陰の言葉に、「志を立ててもって万事の源となす」というものがございます。志とは、「心に決めた目標、それを達成しようとする意志」であります。皆さんには、これから高校生活を始めるに当たり、高校時代の目標や将来の夢など、高い志を立てて、臨んで欲しいと思います。

本校は、昭和二十六年の開校以来、六十七年の歴史と伝統を誇り、六千二百名を超える卒業生が町内はもとより、全道、全国の各地各所で活躍しております。校訓「継続は力なり」のもと、「何事もまずつづけること、継続するということが大切です。簡単なようで実にむずかしいことです。」その努力や積み重ねは、決して無駄になりません。それは勉強だけに止まらず、これから先の人生すべてのことに繋がります。皆さんには、本校における三年間で、社会生活に必要な基礎・基本となる知識や技能をしっかりと身に付けるとともに、また、高校時代は、人格の完成に向け、とても大切な時期であります。この時期をどのように過ごすが、その後の人生に大きな影響を与えます。そういった高校時代に何をなすべきかについて、皆さんに三点お話をさせていただきます。

一つ目は「習慣づくり」です。授業や実習、家庭学習に取り組む学習習慣を身に付けるとともに、時間を守ったり、挨拶をしたりなど、生活習慣もしっかり定着させることです。よい習慣を身に付けておくと社会生活に必ず役立ちますので、高校時代に、行動を継続して習慣化させるよう努力してください。

二つ目は「友人づくり」です。人生には、ともに喜びや悲しみを分かち合う仲間が必要です。高校時代にできた友人は、利害関係のない友人として一生涯付き合うことができます。どうか、クラスや部活動などにおいてより多くの友人をつくるよう努めてください。

三つ目は「思い出づくり」です。人は、楽しい思い出が多いほど幸せなものです。学校祭や見学旅行などで楽しい思い出を残すとともに、生徒会活動や部活

動など、自分が一生懸命に取り組めるものを何か見付け、そのことに真剣に取り組んでほしいと思います。そして、成就感や達成感という真の意味での思い出をつくってほしいと思います。皆さんの健闘を期待しています。

保護者の皆様におかれましては、本校が、大切なお子様をお預かりすることになるわけです。学校としましては、家庭と学校が連携して子どもの教育に取り組んでこそ、効果が上がるものと考えておりますので、御協力をよろしくお願いします。

また、御来賓の方々におかれましては、本校教職員が一丸となって生徒一人一人を大切にし、地域から信頼される学校を目指して教育活動の充実に努めて参る所存ですので、今後とも、変わらぬ御理解と御支援をお願い申し上げます。

結びになりますが新入生の皆さんのこれからの活躍を心から期待し、式辞いたします。

平成三十年四月九日

北海道枝幸高等学校

校長 吉 田 勝 文